

オブジェクトの定義文（DDL）ソースの暗号保存

DBMS_DDL パッケージを使うと、オブジェクト（テーブル、インデックス、パッケージ）作成する時に同時に保存されるソースコードが暗号化される。

パッケージのプロシージャは、以下の通りです

パッケージ名：DBMS_DDL

プロシージャ名	サービス提供の内容説明
CREATE_WRAPPED	オブジェクト（テーブル、インデックス、パッケージ）を作成するとともに、同時に保存されるソースコードは、暗号化して保存する

構成プロシージャについて

プロシージャ名：

機能説明：

受渡し引数

引数名	I/O	データ型	説 明
不明	IN	VARCHAR2	CREATE OR REPLACE で始まるオブジェクト定義文の文字列 ※ 終了文字の;まで記入

プロシージャの呼出し方

```
SQL> BEGIN
      DBMS_DDL.CREATE_WRAPPED (
        ' CREATE OR REPLACE オブジェクトタイプ オブジェクト名
        . . . . .
        END ; '
      ) ;
      END ;
      /
SQL> COMMIT ;
```

(例)

```
SQL> BEGIN
      DBMS_DDL.CREATE_WRAPPED (
        ' CREATE OR REPLACE PROCEDURE test1
          ( in_arg1 IN VARCHAR2, out_arg2 OUT NUMBER )
          IS
          BEGIN
            SELECT empno INTO out_arg2 FROM emp
              WHERE empno = 12 ;
          END ; '
      ) ;
      END ;
      /
```

【参考】 オブジェクトの定義用ソースコードは、user_source テーブルに保存されている

```
SELECT text FROM user_source WHERE
       name = 'ユーザー・オブジェクト名' ;
```

```
SELECT name, text FROM user_source
       WHERE name = 'TEST1' ;
```